

中学生の悩みとその対処行動および学習との関連について

斉藤 ふくみ*・木下 正江**・金田(松永) 恵***・森 よし江****

(2009年11月30日 受理)

The Study on the Relevance between Worries of Junior High School Students and their Coping Behaviors, Learning.

Fukumi SAITO , Masae KINOSHITA, Megumi KANEDA(MATSUNAGA)and Yoshie MORI

(Revised November 30, 2009)

Synopsis

In this study, the researcher conducted an “investigation of worries” of municipal A Junior High School in order to grasp the real condition of junior high school students’ worries, make use of the results of the survey and use them as materials to conduct fruitful activities in school nursing. From the results of analyzing the investigation, “worries of learning and career” marked high ranks. Concerning about the coping behaviors, “being absorbed in hobbies” marked high ranks. From the results of factor analyzing the worries about the learning and career, three factors were extracted, “conflicts over learning,” “conflict over school records” and “conflict about identity.” And the structures of worries were perceived. It is very important for all school personnel to share the results, understand each other’s role at school and give assistance to students’ character-buildings.

I はじめに

中学生は、身体的には身長が伸び始め、二次性徴が出現するとともに急激な身体変化が現れる思春期に該当し、精神発達面からみると前青年期（10～12歳）、初期青年期（12～15歳）にあたる。

*茨城大学教育学部教育保健学教室（Department of Education Health, College of Education, Ibaraki University, Mito, Japan）

**水戸市立第一中学校（The First Junior High School in Mito）

***茨城大学大学院教育学研究科（Graduate School of Education, Ibaraki University, Mito, Japan）

****水戸市立第五中学校（The Fifth Junior High School in Mito）

この時期の特徴は、「自己」へ目が向き自意識ができること、性への関心、「自己同一性」を身につけることがあげられる¹⁾。子どもの成長発達過程の中でも、心身両面で重大な発達課題に直面する中学生は内面にどのような悩みや葛藤を抱えているのであろうか。そして中学生は悩みに対してどのような対処をしているのだろうか。

日本学校保健会の平成18年度保健室利用状況調査²⁾によると、来室者のうち養護教諭が相談の必要を認める者の割合は中学生では31.7%を占め、その背景には「基本的な生活習慣の問題」「学習や進路の問題」「いじめ、友人関係の問題」があることが報告されている。養護教諭は、来室者に対する健康相談活動のなかで、個々の生徒の抱える問題の背景要因について、当該生徒とともに探求していく作業を行っている。その際、自校の生徒の悩みの状況や対処方法について把握していることは、生徒との対応における養護教諭の的確な判断につながり、適切な保健指導や健康相談活動等の基礎となると考える。

そこで本研究は、公立A中学校全校生徒を対象に実施された「悩み調査」を分析し、中学生の悩みの実態を把握することにより、結果を全教職員が共有して生徒理解に役立てるとともに、養護活動の資料として活用することを目的とし、考察を加えたので報告する。

II 研究方法

2009年6月にA中学校において全校376名を対象に質問紙集合調査を実施した。回収は361名、回収率は96.0%である。調査内容は、伊藤³⁾の調査を参考に作成した。悩みの内容については「勉強」(9項目)、「進路」(4項目)、「学校生活」(6項目)、「友人関係」(4項目)、「体」(7項目)、「家庭生活」(7項目)、「生活習慣」(6項目)、「性格」(5項目)、「相談」(4項目)であり、対処行動については16項目の全68項目である。「全く当てはまらない」1点から「とてもよく当てはまる」4点までの4件法とした。更に「先生」「両親」などの悩みの相談相手と、「社会に役立つ人になるため」「尊敬される人になるため」などの学校の勉強が将来どんなことに役立つかについて選択式の質問を加えた。解析はSPSS 10.1 for windowsを用い、T検定、分散分析、交互作用、因子分析を行った。

III 結果

1. 悩みの内容の学年差と性差

平均得点は、「勉強」(min;1.83-max;3.65)が他の内容に比べて最も高く、次いで「進路」(min;1.70-max;3.03)が高かった。最も低いのは「相談」(min;1.36-max;1.83)であった。

「勉強」は9項目すべてにおいて、学年間の平均得点に有意差が認められたが、性差は認められなかった(表1)。項目1, 2, 5, 6, 7で2年男子の平均得点が高くなっている他は、平均得点は全て1年に比べて2年が高く、2年に比べて3年が高かった。

「進路」の平均得点は「2親の勧める高校と一致しない」が学年・性別にみても低かった(表2)。

「学校生活」の平均得点は「1クラスがつまらない」「2授業がつまらない」「3校則が厳しいと思う」において学年間に有意差をみとめ($p < 0.05$)、更に「3校則が厳しいと思う」の平均得点は

女子が男子より高く有意差が認められた ($p<0.05$) (表3)。

「友人」の平均得点は「4友達よりおとっていると思う」の3年女子を除いて2点以下だった。友人の悩みは全体的に少ない結果であった(表4)。

表1 勉強についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年			2年			3年			分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年*性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	平均 n=121	男子 n=55	女子 n=51	平均 n=106	男子 n=63	女子 n=71	平均 n=134						
1 勉強と部活動の両立できない	2.03	2.05	2.04	2.37	2.20	2.29	2.27	2.38	2.33	0.765	5.428	0.020 *	0.000	0.990	0.975
2 勉強の仕方がわからない	1.98	2.10	2.04	2.38	2.35	2.37	2.32	2.77	2.55	0.068	19.059	0.000 ***	0.411	0.522	0.116
3 成績に満足できない	2.68	2.74	2.71	2.93	2.98	3.00	3.00	3.31	3.16	0.000 ***	15.306	0.000 ***	0.212	0.646	0.256
4 勉強に集中できない	2.20	2.15	2.18	2.48	2.24	2.36	2.51	2.79	2.65	0.221	14.381	0.000 ***	2.148	0.144	0.068
5 不得意な科目がある	2.95	3.28	3.12	3.47	3.32	3.40	3.33	3.65	3.49	0.207	13.954	0.000 ***	0.524	0.470	0.999
6 授業の内容が難しい	2.08	2.33	2.21	2.62	2.59	2.61	2.38	2.86	2.62	0.797	16.166	0.000 ***	0.038	0.846	0.333
7 勉強が好きにならない	2.35	2.30	2.33	2.84	2.51	2.68	2.71	2.68	2.70	0.002 ***	10.321	0.001 ***	0.370	0.544	0.930
8 成績の順位が気にかかる	2.87	2.77	2.82	2.98	2.92	2.95	2.98	3.15	3.07	0.580	5.441	0.020 *	1.583	0.209	0.179
9 勉強は将来役に立たない	1.83	1.85	1.84	2.20	2.10	2.15	2.22	2.20	2.21	0.004 ***	9.793	0.002 ***	0.001	0.972	0.848

*: $p<0.05$, ***: $p<0.005$

表2 進路についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年*性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 希望校に進学できるかどうか	2.85	2.84	2.87	3.00	2.77	3.03	0.414	0.086	0.770	0.466	0.495	0.183
2 親の進める高校と一致しない	1.75	1.70	1.96	2.14	1.65	1.94	0.210	0.065	0.799	0.571	0.450	0.171
3 自分の適正能力がわからない	2.32	2.18	2.62	2.47	2.42	2.55	0.061	1.898	0.169	1.098	0.295	0.365
4 自分の将来が不安である	2.47	2.18	2.48	2.45	2.37	2.50	0.833	0.489	0.485	2.253	0.134	0.137

表3 学校生活についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年*性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 クラスがつまらない	1.49	1.46	1.60	1.48	1.70	1.59	0.211	4.241	0.040 *	0.127	0.722	0.473
2 授業がつまらない	1.42	1.81	2.04	1.73	1.84	1.99	0.063	6.020	0.015 *	1.734	0.189	0.240
3 校則が厳しいと思う	1.78	2.36	1.76	2.28	2.15	2.59	0.172	5.410	0.021 *	5.289	0.022 *	0.710
4 先生と話し合う時間がない	1.86	1.98	1.93	1.78	2.00	2.07	0.800	1.625	0.203	0.270	0.604	0.742
5 部活動が自分に合っていない	1.34	1.46	1.39	1.41	1.38	1.51	0.722	0.163	0.686	0.423	0.516	0.981
6 部活の人間関係がうまくいかない	1.59	1.70	1.52	1.38	1.59	1.59	0.945	0.372	0.542	0.588	0.444	0.497

*: $p<0.05$, ***: $p<0.005$

表4 友人についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年*性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 心から信頼できる友がいない	1.53	1.51	1.51	1.41	1.46	1.61	0.391	0.006	0.938	0.450	0.503	0.430
2 友達とうまくやっけていけない	1.52	1.56	1.45	1.43	1.49	1.48	0.632	0.282	0.596	0.074	0.785	0.784
3 いじめを受けている	1.33	1.15	1.11	1.12	1.21	1.13	0.373	1.547	0.214	2.150	0.143	0.369
4 友達よりおとっていると思う	1.92	1.85	1.95	1.75	1.79	2.16	0.332	1.485	0.224	0.816	0.367	0.159

表5 体についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 自分の容姿が気になる	1.90	2.18	1.58	2.00	1.75	2.34	0.044	0.007	0.936	0.227	0.634	0.161
2 体格に引け目を感じる	1.80	1.74	1.56	1.76	1.68	2.16	0.575	0.024	0.878	0.044	0.834	0.741
3 体力に自信がない	2.33	2.25	2.20	2.33	1.90	2.55	0.948	0.227	0.634	3.066	0.081	0.005 **
4 疲れやすい	2.27	2.38	2.29	2.22	2.10	2.70	0.504	0.385	0.535	0.880	0.349	0.058
5 夜眠れない	1.54	1.56	1.60	1.61	1.52	1.81	0.470	1.106	0.294	2.679	0.103	0.146
6 食欲がない	1.48	1.56	1.47	1.49	1.35	1.63	0.911	0.099	0.753	0.194	0.660	0.210
7 何となく体調が悪い	1.73	1.75	1.62	1.65	1.63	1.86	0.376	0.005	0.945	0.162	0.688	0.388

: $p < 0.01$, *: $p < 0.005$

表6 家庭生活についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 親が自分を理解してくれない	1.73	1.54	1.55	1.78	1.76	1.73	0.349	0.678	0.411	0.541	0.463	0.409
2 兄弟姉妹とうまくいかぬ	1.81	1.27	1.56	1.37	1.51	1.55	0.129	0.022	0.881	13.149	0.000 ***	0.005 **
3 家族の仲がよくない	1.57	1.45	1.40	1.37	1.56	1.66	0.539	1.021	0.313	1.229	0.268	0.274
4 親が厳しい	1.87	1.54	1.72	1.63	1.48	1.69	0.282	1.246	0.265	6.276	0.013 *	0.013 *
5 親と話す時間がない	1.62	1.39	1.47	1.34	1.60	1.69	0.448	2.142	0.144	3.372	0.067	0.116
6 兄弟姉妹とひきざれる	1.54	1.38	1.40	1.45	1.43	1.51	0.136	0.094	0.760	1.340	0.248	0.226
7 家庭の経済状況が気になる	2.00	1.92	1.75	1.64	1.90	2.13	0.664	0.154	0.695	0.910	0.341	0.281

*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.005$

表7 生活習慣についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 朝食をとれない時がある	1.42	1.31	1.25	1.37	1.59	1.45	0.416	2.730	0.099	0.002	0.963	0.798
2 規則正しく食事をとれない	1.52	1.48	1.31	1.25	1.46	1.52	0.495	0.000	0.989	0.231	0.631	0.588
3 栄養がたよっている	1.90	1.85	1.62	1.69	1.71	1.82	0.422	1.201	0.274	0.282	0.596	0.405
4 野菜類をあまり食べない	1.92	1.77	1.89	1.45	1.67	1.63	0.200	2.763	0.097	1.597	0.207	0.581
5 睡眠時間が少ない	2.00	2.36	1.91	2.10	2.10	2.23	0.334	0.014	0.907	2.704	0.101	0.376
6 ゆったりする時間がない	2.15	2.49	2.09	2.02	2.21	2.17	0.225	0.713	0.399	3.122	0.078	0.123

表8 性格についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 意志が強くない	2.45	2.20	2.33	2.08	2.21	2.45	0.127	0.189	0.664	3.206	0.074	0.075
2 根気や集中力が低い	2.20	2.15	2.33	2.18	2.27	2.54	0.095	4.371	0.037 *	1.459	0.228	0.142
3 何事にも消極的である	2.13	2.05	2.13	2.02	2.25	2.25	0.199	2.300	0.130	0.373	0.542	0.687
4 自分がいやになるときがある	2.22	2.52	2.22	2.39	2.21	2.86	0.421	2.053	0.153	0.082	0.775	0.209
5 他の人の言う事が気になる	2.23	2.66	2.24	2.45	2.30	2.70	0.408	0.259	0.611	1.801	0.180	0.966

*: $p < 0.05$, ***: $p < 0.005$

表9 相談についての悩みに関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年		2年		3年		分散分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	男子 n=55	女子 n=51	男子 n=63	女子 n=71						
1 体の悩みを相談できない	1.83	1.54	1.55	1.37	1.70	1.56	0.264	0.120	0.729	2.065	0.152	0.516
2 勉強の悩みを相談できない	1.69	1.44	1.56	1.36	1.73	1.51	0.628	0.479	0.489	1.096	0.296	0.980
3 友達との悩みを相談できない	1.78	1.57	1.49	1.36	1.67	1.49	0.565	0.543	0.461	0.568	0.452	0.970
4 家庭の悩みを相談できない	1.83	1.60	1.56	1.60	1.67	1.56	0.308	0.420	0.517	0.941	0.333	0.581

「体」の平均得点は「3 体力に自信がない」「4 疲れやすい」が他の5項目に比べると全学年とも高く、うち「3 体力に自信がない」では学年と性別に交互作用がみられたが、有意な単純主効果は

みられなかった（表5）。

「家庭生活」の平均得点は「2 兄弟姉妹とうまくいかない」(p<0.005), 「4 親が厳しい」(p<0.05) の2 項目において交互作用がみられ1 年生にのみ性差が有意に認められ, 男子が女子より高得点だった（表6）。

「生活習慣」の平均得点は「5 睡眠時間が少ない」と「6 ゆったりする時間がない」を除いて2 点未満だった（表7）。

「性格」の平均得点は「2 根気や集中力がない」の項目で1 年に比べて2, 3 年がやや高く学年間で有意差が認められた (p<0.05)（表8）。

「相談」の平均得点は, 学年差, 性差はみられなかった（表9）。

2. 悩みの対処方法

悩みの対処方法についての16 項目の平均得点をみると, 全体では「10 趣味に熱中する」(1 年; 2.90, 2 年; 3.19, 3 年; 3.10) が最も高く, 次いで「1 誰かに悩みを聞いてもらう」(1 年; 2.92, 2 年; 3.11, 3 年; 2.90), 「12 テレビ・CDで気を紛らわす」(1 年; 2.71, 2 年; 2.73, 3 年; 2.94) が高い得点だった（表10）。学年間では「3 何もしないで我慢する」で男子では3 年が, 女子では2 年が高い得点だった (p<0.01)。「6 寝てしまう」(p<0.01), 「12 テレビ・CDなどで気を紛らわす」(p<0.05), 「14 パソコンや携帯メールをする」(p<0.01) では1, 2 年に比べて3 年の得点が高くなっていた。「15 好きな物をたくさん食べる」では2 年が1, 3 年に比べて得点が高くなっていた。

性差をみると, 男子では「10 趣味に熱中する」(3.09), 女子では「1 誰かに悩みを聞いてもらう」(3.32) が最も高くなっていた。なお, 「1 誰かに悩みを聞いてもらう」では男女間で有意差が認められ, 各学年ともに男子より女子の得点が高くなっていた。

表10 悩みの対処に関する学年・性別の平均得点・分散分析結果および交互作用

質問項目	1年			2年			3年			男子 平均	女子 平均	分散 分析	学年差 F値	有意確率	性差 F値	有意確率	学年×性別 有意確率
	男子 n=60	女子 n=61	平均 n=121	男子 n=55	女子 n=51	平均 n=106	男子 n=63	女子 n=71	平均 n=134								
1 誰かに悩みを聞いてもらう	2.46	3.37	2.92	2.80	3.42	3.11	2.63	3.17	2.90	2.63	3.32	0.791	0.008	0.927	13.517	0.000 ***	0.120
2 努力して乗り越える	2.61	2.90	2.76	2.72	2.72	2.72	2.82	2.77	2.80	2.72	2.80	0.606	0.622	0.431	1.076	0.300	0.348
3 何もしないで我慢する	2.22	1.95	2.09	2.24	2.36	2.30	2.48	2.03	2.26	2.31	2.11	0.056	3.882	0.050 **	0.140	0.709	0.510
4 誰かに八つ当たりする	1.84	1.86	1.85	1.76	1.92	1.84	1.78	1.99	1.89	1.79	1.92	0.227	0.455	0.500	0.049	0.824	0.470
5 自分の部屋に閉じこもる	1.61	1.64	1.63	1.62	1.86	1.74	1.48	2.11	1.80	1.57	1.87	0.255	3.320	0.069	0.844	0.359	0.022 *
6 寝てしまう	2.02	2.36	2.19	2.20	2.32	2.26	2.43	2.56	2.50	2.22	2.41	0.134	6.931	0.009 **	1.987	0.160	0.361
7 勉強に集中する	2.15	1.90	2.03	1.83	2.08	1.96	1.78	1.67	1.73	1.92	1.88	0.256	0.166	0.684	0.342	0.559	0.881
8 部活動に熱中する	2.66	2.44	2.55	2.54	2.84	2.69	2.84	2.19	2.52	2.68	2.49	0.594	0.000	0.995	0.582	0.446	0.112
9 友達の家で遊びに行く	2.42	2.20	2.31	2.67	2.42	2.55	2.71	2.21	2.46	2.60	2.28	0.741	1.383	0.240	0.144	0.705	0.388
10 趣味に熱中する	3.02	2.77	2.90	3.15	3.22	3.19	3.10	3.10	3.10	3.09	3.03	0.674	1.852	0.174	1.504	0.221	0.437
11 読書をする	2.49	2.54	2.52	2.22	2.84	2.53	2.35	2.43	2.39	2.35	2.60	0.415	0.382	0.537	0.272	0.603	0.949
12 テレビ・CDで気を紛らわす	2.63	2.78	2.71	2.78	2.67	2.73	2.81	3.07	2.94	2.74	2.84	0.207	4.229	0.040 *	0.018	0.894	0.659
13 テレビゲームに熱中する	2.15	1.86	2.01	2.42	2.06	2.24	2.41	1.67	2.04	2.33	1.86	0.487	0.222	0.637	0.021	0.885	0.085
14 パソコン・携帯メールをする	1.68	2.00	1.84	2.00	2.38	2.19	2.05	2.39	2.22	1.91	2.26	0.925	7.555	0.006 **	0.613	0.434	0.866
15 好きな物をたくさん食べる	1.74	2.04	1.89	2.11	2.18	2.15	2.06	2.09	2.08	1.97	2.10	0.113	4.262	0.040 *	1.091	0.297	0.374
16 ゲームセンターや買物する	1.76	1.98	1.87	1.65	2.08	1.87	1.84	2.04	1.94	1.75	2.03	0.470	0.629	0.428	0.835	0.361	0.947

*:p<0.05, **:p<0.01, ***: p<0.005

3. 勉強と進路に関する悩みの因子分析結果

質問紙調査の結果から、平均得点の高かった勉強と進路に関する悩みについて主因子法およびバリマックス回転の因子分析を行った（表 11）。その結果、解析可能な 3 因子が抽出された。第 I 因子では「勉強の仕方がわからない」「授業の内容が難しい」「勉強が好きになれない」「勉強に集中できない」「勉強と部活動の両立ができない」「不得意な科目がある」「勉強は将来役立たない」の 7 項目に対して負荷量が高く、これらを「勉強に関する葛藤」と命名した。第 II 因子は「成績の順位が気にかかる」「成績に満足できない」「希望校に進学できるか不安」の 3 項目に対して負荷量が高く、これらを「成績に関する葛藤」と命名した。第 III 因子は「自分の適性がわからない」「自分の将来が不安である」「親の意見と一致しない」の 3 項目に対して負荷量が高く、これらを「自己同一性に関する葛藤」と命名した。

表11 勉強と進路に関する悩みの因子分析結果

	因子			
	I	II	III	共通性
第 I 因子：勉強に関する葛藤				
・ 勉強の仕方がわからない	.733	.212	.121	.596
・ 授業の内容が難しい	.717	.159	.180	.572
・ 勉強が好きになれない	.657	.135	.285	.531
・ 勉強に集中できない	.631	.210	.172	.472
・ 勉強と部活動の両立できない	.546	.243	.044	.302
・ 不得意な科目がある	.495	.201	.128	.359
・ 勉強は将来役立たない	.470	-.021	.343	.339
第 II 因子：成績に関する葛藤				
・ 成績の順位が気にかかる	.162	.676	.090	.492
・ 成績に満足できない	.465	.565	.082	.542
・ 希望校に進学できるか不安	.227	.505	.340	.422
第 III 因子：自己同一性に関する葛藤				
・ 自分の適性がわからない	.275	.277	.557	.463
・ 自分の将来が不安である	.108	.445	.529	.490
・ 親の意見と一致しない	.102	.031	.493	.254
因子寄与	3.036	1.539	1.258	
因子寄与率 (%)	23.352	11.842	9.675	
累積寄与率 (%)	23.352	35.194	44.869	

因子抽出法：主因子法 回転法：Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

a. 7 回の反復で回転が収束しました。

4. 悩みの相談相手

「自分の悩みを誰に相談したいか」の質問に対して回答された結果は、表 12 に示すように、男子

表 12 自分の悩みを誰に相談したいか (1 項目選択)

N=361

性別	学年	1 位	2 位	3 位
男子	1 年 (n=60)	友達	両親/自分で解決する	相談する人はいない
	2 年 (n=55)	友達	両親	自分で解決する
	3 年 (n=63)	自分で解決する	友達	両親
女子	1 年 (n=61)	友達	両親	自分で解決する
	2 年 (n=51)	友達	両親	自分で解決する
	3 年 (n=71)	友達	両親	自分で解決する

では友達，自分，両親が学年によってばらつきがあり，1年と2年では1位に友達が，3年では自分で解決するが選択された。一方，女子では学年差はなく，1位友達，2位両親，3位自分で解決するであった。

5. 学校の勉強と将来についての考え

「学校の勉強が将来どんなことに役立つと考えていますか」の質問に対して回答された結果は，表13に示すように，男子では「社会に役立つ人になるため」「心にゆとりのある幸せな生活をするため」「勉強を生かして仕事につきたい」が上位2位にあがっていた。3位以下は学年によってばらつきがみられた。一方女子では「社会，心，勉強」が1～3位に位置づいた。男子でみられる「お金持ちになるため」は5位内にみられなかった。

表 13 学校の勉強が将来どんなことに役立つと考えているか（1項目選択） N=361

性別	学年	1位	2位	3位	4位	5位
男子	1年 (n=60)	社会	勉強	趣味	父・母	心/一流
	2年 (n=55)	社会	心	お金	勉強	尊敬/趣味/一流
	3年 (n=63)	社会/心	勉強	趣味/一流	父・母/お金	尊敬/会社
女子	1年 (n=61)	社会	勉強	心	尊敬	父・母
	2年 (n=51)	社会	心	勉強	趣味	尊敬
	3年 (n=71)	社会	心	勉強	趣味	一流/会社

- ※ 社会：社会に役立つ人になるため
- ※ 勉強：勉強を生かして仕事につきたい
- ※ お金：お金持ちになるため
- ※ 父・母：よいお父さん、お母さんになるため
- ※ 会社：会社や役所に入ってえらく（出世）なるため

- 心：心にゆとりのある幸せな生活をするため
- 趣味：趣味やスポーツなど楽しく生活するため
- 一流：一流の会社に入るため
- 尊敬：尊敬される人になるため

IV 考察

1. 中学生の悩みの特徴

本調査結果から，中学生の悩みは「勉強」が大きな位置を占めていることが捉えられた。これは伊藤³⁾の調査においても悩みの上位10位内に勉学上の悩みが6項目ランクされていたという結果や，中山⁴⁾の調査においても最も多くみられた中学生の悩みが「将来の進路のこと」「成績や勉強のこと」についてであったという結果と一致するものである。中学生の悩み調査としては最も古い報告と思われる1955年の阿川⁵⁾の行った足立区F中学校第2学年を対象とした「A家庭に関するもの40%」「B自己に関するもの24%」「C交友に関するもの22%」「D勉強に関するもの11%」と勉強に関する悩みをもつ者はわずかに1割であった結果と比較すると，1960年代以降の高度経済成長と社会，教育，環境等のめまぐるしい変化が中学生の内面にも大きく影響してきたといえ，今日の学力偏重社会，成果主義社会が反映した結果と捉えられる。本調査においては，「勉強についての悩み」は最高平均得点3.65（3年女子）であり，5点と回答した場合を100%とすると73.0%となり，その比重の大きさは相当なものといえるだろう。

1955年当時高かった内容に類似する「相談」，「家庭生活」，「友人」，「性格」の平均得点は低かつ

た。また有意差が認められたのは、「家庭生活」の「兄弟姉妹とうまくいかない」「親が厳しい」の2項目で1, 2年は男子が高く、3年は女子が高かった。女子は3年生でなんらかの変化が生じる傾向や、親からの期待を男子は女子より受けやすいなどの背景要因があることが推察される。また「学校の勉強が将来どんなことに役立つと考えていますか」の回答において男女差がみられ、男子では3位以内に「お金持ちになるため」が入っており、現実思考があることが推測された。A中学校で昨年度実施した悩みの調査では、家族関係に悩みを抱えている生徒は、友人関係にも悩みを抱える傾向が大きいことが明らかになっている。今回は、この点において十分な検証ができなかった。今回の課題としたい。

また、性格についての悩み（min;2.02-max;2.86）は全学年で平均的に抱く悩みであることが捉えられた。ベネッセ教育研究所による調査⁶⁾においても「自分の性格について」27.8%が悩んだことがありと回答している結果とも一致するものである。ともすれば自信を失いがちになりそうな自分と内面で葛藤している姿を洞察しながら、生徒自らの力で自信を取り戻していけるような援助が必要と考える。

実際に生徒が悩んだ時に誰に相談したいかを尋ねた結果では、学年・性差はあるものの第1位に友達、第2位に両親、第3位に自分が認められた。1975年に秦⁷⁾が行った中学生対象の東京都小金井市の調査結果では、相談相手は第1位友達、第2位母親、第3位に父親/兄弟となっていた。今回の結果でみられた「自分で解決する」は、秦の調査における「誰にも相談しない」（男子45.4%）という項目と類似している。しかし、今回は同じ質問の選択項目に相談する人はいないも含めてあるため「自分で解決する」項目では相談相手がいらないのではなく、自分で解決するという生徒の意志を読み取ることができる。一方秦の調査では相談相手がいらないものも含まれていることを考慮する必要がある。更に2008年の小針⁸⁾の調査結果でも、今回の調査結果と同様「親」「友達」「相談せず」が上位3項目であったことと照らし合わせれば、誰にも頼らず自分で解決している傾向が捉えられる。しかし、この結果をよい傾向と判断するのか、あるいは相談できない何か（コミュニケーションの問題など）が存在すると判断するのかについては今後さらに分析を深めていく必要があるだろう。

次いで生徒は悩みをどのように対処しているかをみると、男女とも「趣味に熱中する」「誰かに悩みを聞いてもらう」「努力して乗り越える」「部活動に熱中する」が高く、積極的対処法がみられる反面、「何もしないで我慢」したり「寝てしまう」「パソコンや携帯メールをする」など消極的対処法に学年差がみられた。一方「だれかに悩みを聞いてもらう」では女子の方が有意に高くなった。実際、養護教諭に悩みの相談を持ちかける生徒は圧倒的に女子に多い。養護教諭が保健室で相談活動を行う際には、これらの結果を捉えて、性差に配慮しながら表面的には悩みの表出はみられない生徒であっても、本当に訴えたいことは、悩んでいる「ところ」を訴えたい⁹⁾という千羽の指摘を考慮してより深い洞察が求められるだろう。

2. 勉強・進路に関する悩みと養護教諭の支援

勉強・進路に関する悩みの因子分析から、「勉強に関する葛藤」（第Ⅰ因子）、「成績に間する葛藤」（第Ⅱ因子）、「自己同一性に関する葛藤」（第Ⅲ因子）が抽出された。第一義的に勉強に関することが悩みの中心となり、（勉強したいのだけれど）「勉強の仕方がわからない」「授業の内容が難しい」

「勉強が好きになれない」「勉強に集中できない」などの内面の葛藤を抱えていることが推測された。授業者はこのような生徒の勉強に関する葛藤を十分理解して対応できるよう情報提供する必要がある。次いで成績について目の前の進路と直結する現実的な問題として気につけ、不安を抱えていることがうかがえた。第Ⅲ因子の「自己同一性に関する葛藤」は、これらの第Ⅰ、第Ⅱ因子の背景にある生徒の深層部分、つまり勉強と進路の悩みの背後に自己同一性の不安が隠れていることを示唆するものと解釈される。毎年、入試時期には、保健室を訪れ、希望校の合格ラインと自分の学力差に涙する3年生の姿がある。それは、親の期待に応えることができない自分自身への責めであり、悔しさであり、ふがいない自分の将来に対する不安でもある。児玉は、学校が生徒に期待する成長の論理について「学校は課題達成的な生き方を生徒に要請する一方で、人間関係形成的な生き方を育成する場である」¹⁰⁾と説明し、前者を垂直方向に、後者を水平方向にとったモデルを提示している。課題達成的な生き方とは目的志向的で上昇の階段を登る姿勢を指す¹⁰⁾。一方人間関係形成的な生き方とは人間関係を安定的発展的につくっていく能力の開発を意味し、人間形成的な側面とされる¹⁰⁾。悩みの内容だけでなく、対処方法や自己同一性の不安の有無、勉強が役立つ将来観などを踏まえて、養護教諭は人間関係形成的な生き方を支援するうえから、生徒の勉強を中心とした悩みを共有して情緒の安定を図る相互依存的・人間的な関係を育む働きかけをしていくことが望まれる。かつて中安¹¹⁾は、「近代教育は系統的、段階的に精神や認識に働きかけるために集団一斉の授業方式を中心とし、他方養護活動は一人ひとりの子どもの経験や生活の個別性を出発として全体性としてのまるごとの子どもを対象とすることから、同じ教育職にありながら、養護教諭の教育活動におけるこのような専門性と独自性は、危機的状況にある近代教育の対抗原理となる」と指摘した。学校は垂直方向の一律の目的を志向して営まれている現実のなかで、養護教諭が担うのは、水平方向での生徒の情緒的支援にあるといえ、対抗原理というよりは、むしろ学校教育が円滑に営まれるように基礎的な援助を担っていると考えられる。大谷は学校教育における「教授」「訓練」「養護」の関係において、「養護」は人間形成に向かう教育の基盤であり中核であるとしている¹²⁾。

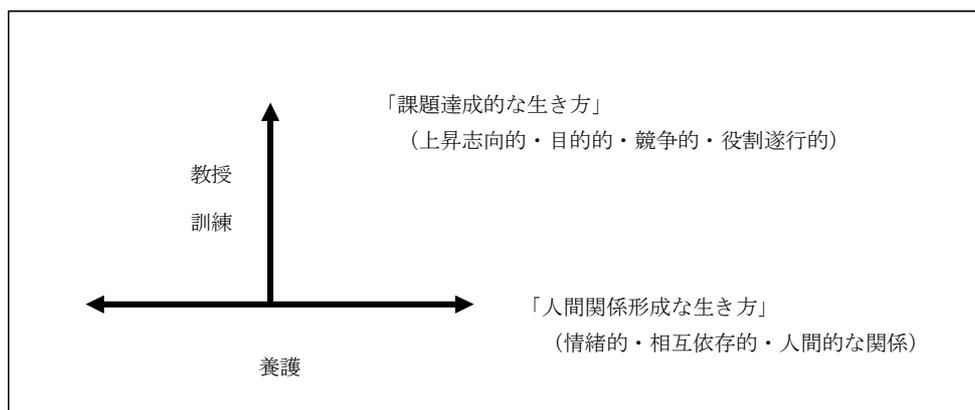


図1 教育における縦方向と横方向の作用（児玉の図¹³⁾に一部加筆）

これらをふまえ、筆者らが児玉の図に一部加筆したのが図1¹³⁾である。学校教育が円滑に進んでいく背後には、学校教育からあぶれたり、はみだしたり、落ちこぼれたり、悩んだりする生徒を養護の機能において情緒的な安定を図ったり、安定した人間関係を実感させるという日常の惜しみない

援助があるからに他ならないと考える。一般教師も養護教諭も共に目指すのは、教育の目的であるところの人間形成であり、双方が互いの役割・機能を十分理解し合い、一人一人の生徒の成長発達におけるつまづきを、むしろ自力克服という人間形成にとってきわめて有意義な経験¹⁴⁾として捉える視点をもって援助していくことが望まれる。今回の調査結果から学年差や性差を踏まえて悩みの内容が明らかになったことから、この結果を全教職員で共有していくこと、お互いの理解と協働によって日々の教育活動に活かしていくことが有効と考える。

最後に本研究は一中学校のみを対象としたものであることから、一般化することは難しい。今後調査対象を増やして、今回の結果に検証を加え、よりよい養護活動の資料として活用できるよう研究を継続していきたい。

V まとめ

本研究は、中学生の悩みの実態を把握するとともに、その結果を生徒理解に役立て、充実した養護活動を行うための資料として活用することを目的として、公立A中学校全校生徒を対象に「悩み調査」を実施した。分析の結果、中学生の悩みとしては「勉強についての悩み」と「進路についての悩み」が高く、対処方法では「趣味に熱中する」が高かった。また、勉強と進路に関する悩みの因子分析の結果、「勉強に関する葛藤」「成績に関する葛藤」「自己同一性に関する葛藤」の3因子が抽出され、中学生の悩みを構造的に把握することができた。この結果を全教職員で共有し、お互いの役割を理解しあって、生徒の人間形成を援助することが重要と考える。

VI 謝辞

本稿をまとめるにあたって、本研究の目的をご理解いただいた公立A中学校校長先生はじめ職員の皆様、そして、調査にご協力くださった全校生徒の皆様に心より感謝しお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 久保千春：思春期・青年期における心，現代人の心の支援シリーズ3 思春期・青年期・青少年の悩みにこたえる，6-7，慶應義塾大学出版会，2002
- 2) 日本学校保健会：保健室利用状況に関する調査報告書，54，65，2008
- 3) 伊藤武樹：悩みとその対処行動が中学生の健康レベルに及ぼす影響，学校保健研究，35(8)，415，1993
- 4) 中山貴美子：中学生の悩みと主観的健康度—地域における思春期保健のアプローチ，思春期学，12(4)，371，1994
- 5) 阿川昔：中学生の悩み，(91)，77，1955
- 6) ベネッセ教育研究所：中学生の悩み モノグラフ・中学生の世界，70，31，ベネッセコーポレーション，2001
- 7) 秦政春：中学生の悩み—東京都小金井市の調査より—，教育と医学，27(5)，15-16，1975

- 8) 小針誠：中学生はスクールカウンセリングを利用しているのか？—心理主義化する現代日本社会における中学生の悩みとその相談先，同志社女子大学総合文化研究所紀要，25，34，2008
- 9) 千羽喜代子：思春期女兒の悩みについて，思春期学，16(4)，187，1998
- 10) 児玉隆治：学校メンタルヘルスの構造的な理解のために，学校メンタルヘルス実践事典，11，日本図書センター，1996
- 11) 中安紀美子：特集第44回日本学校保健学会記録シンポジウムⅡ 養護活動を支える理論の構築に向けて（座長：堀内久美子），学校保健研究，39(6)，500，1998
- 12) 大谷尚子：第1章養護の概念（大谷尚子・中桐佐智子編「新養護学概論」），21，東山書房，2009
- 13) 前掲書10)，12
- 14) 安藤延男：中学生の悩み，教育と医学，27(5)，421，1975